



滋賀短期大学 「留学生だより」



概要

今年度、本学には、ベトナム、ミャンマー、インドネシア出身の留学生が在籍しています。コロナ禍で実施が控えられてきた行事も、令和4年度からは徐々に実施が再開されており、留学生としてイベント等に参加する機会もありました。その中で特に印象に残ったイベントについて、2回生の留学生が作成した体験記を紹介します。

※この「留学生だより」では、留学生が作成した体験記を通して、本学の留学生が活躍する様子をお伝えします。

2022年度の一年間で印象に残っていること「しがたんフェスタ」

滋賀短期大学 デジタルライフビジネス学科
2回生 ノウ ナイチンゲール

私が日本に留学した理由は、IT分野に興味があったからです。日本はIT技術が発展しているので、WEBデザインやプログラミングなどを勉強したいと思い、留学しました。日本語学校で勉強しながら大学を探している中で、私の勉強したい分野が学べる学科を見つけました。それが、今私が所属している滋賀短期大学に新しくできたデジタルライフビジネス学科です。

滋賀短期大学には留学生がたくさんいるので、日本語の勉強をしたり、留学生向けのイベントに参加したりする機会もありました。昨年度参加したイベントの中で一番印象に残っているのは、滋賀短期大学の創立50周年記念事業として行われた「しがたんフェスタ」です。例年行われているイベントではないため、特別な機会でした。ですから、留学生みんなでブースを出すことにしました。留学生同士で話し合い、フェスタでは、ベトナム、インドネシアとミャンマーの留学生3名でカフェを出しました。それぞれの学生が母国の有名な食べ物をカフェで出すことにしました。私はミャンマーの紅茶やお茶の葉のサラダなどを出しました。外国の食材を日本で買うのは難しいですが、早くから準備をして動いたおかげで必要な食材を買うことができました。

フェスタの当日、留学生3人のうちの1人が体調不良で欠席してしまうというトラブルがありました。残った2人だけで注文を取り、食べ物を提供するのは大変でした。しかし、事前にやり方を話し合っていたことと、よくコミュニケーションを取って協力できたので、問題なく終えることができました。カフェには、地域の子供からお年寄りまでたくさんのお客様が来てくれました。母国の料理や文化を紹介することができました。「おいしかった」とお客さんに喜んでもらえてとても嬉しかったです。



カフェで食べ物を出す以外に、食べ物の説明を日本語と母国語で書いた物を準備したり、当日には、私がよく作る母国料理のレシピを日本語で書いたものを配ったり、文化の紹介をしたりしました。そのなかで私が一番頑張ったことは、ミャンマーの竪琴の演奏です。竪琴を弾くのは初めてでしたが、先生に教えてもらい、1ヶ月ほど練習をしました。当日は頑張って一曲弾くことができました。聞いてくれた人に拍手をしてもらえて、とても嬉しかったです。

今回の経験から学んだことは、協力してひとつのことを成し遂げることの大切さです。一人ならできなかったと思いますが、みんなで協力したのでカフェを最後までやり遂げることができました。また、他の人と協力する上でコミュニケーションをたくさんとることで、自分の知らなかったこともよく分かるようになりました。来年もこのような機会があれば、今年よりもっと良くなるように頑張りたいです。





発行元：国際交流部会